

## 撮影快調！

### 【チェルフィッチュ 創立 20 年記念】

第 49 回岸田國土戯曲賞受賞作

## 『三月の 5 日間』

リクレーションに迫る

ドキュメンタリーを制作決定！



映像制作チーム「青の洞窟」を運営する株式会社エムマッティーナ(本社:埼玉県熊谷市、代表取締役:香取英敏)は、11月24日(金)、最新作「言葉と身体でダイナマイト」(仮)の制作を決定した。

本作は、演劇カンパニー・チェルフィッチュの代表作『三月の5日間』の制作過程に密着したドキュメンタリー。主宰である岡田利規は、2004年に初演を迎えたこの作品で、イラク戦争の最中、戦場から物理的にも精神的にも遠い地に生きる日本のフリーターの若者たちの生態を描き、台詞や身体所作が「超リアル」と評され世界中で喝采を浴びた。2005年第49回岸田國土戯曲賞を受賞。今回、創立20周年の節目として、13年ぶりの再創造(リクレーション)となる。

メガホンを取るのは、『三月の5日間』をはじめ、チェルフィッチュの公演に俳優として多数参加してきた、ドキュメンタリー監督・太田信吾。独特の言語と身体観を礎に演出する岡田利規の創作のプロセスを克明に記録する。今回新たにオーディションで選ばれた24歳以下の俳優たちが立ち上げていく舞台と共に、2015年にフランス・レバノンでテロに遭遇し、一時窮地に陥った当時のメンバーの体験、その後の軌跡などを、当事者の視点から描く。撮影は、昨年冬の出演者オーディションから始まっており、12月1日からKAAT神奈川芸術劇場を皮切りに、全国7都市で行う本公演にも同行する。ドキュメンタリーの公開時期は2019年以降を予定。詳細は、随時ホームページ等で発表していく。



#### ◆監督コメント

・太田信吾(映画監督/俳優)

『三月の5日間』初演から13年。岡田自身が「時代劇」と呼ぶ戯曲を再演するということは、時代に逆行しているのではないかと疑問も浮かびます。しかし、自己変革を続け表現を更新してきたチェルフィッチュだからこそ、その過程に大きなドラマがあるのではないかと考え、この制作に挑むことにしました。完成を楽しみにしていきましょう。

#### (太田信吾プロフィール)

1985年生まれ。長野県出身。処女作『卒業』がイメージフォーラムフェスティバル2010優秀賞・観客賞を受賞。『わたしたちに許された特別な時間の終わり』が山形国際ドキュメンタリー映画祭2013アジア千波万波部門に選出。世界12ヶ国で公開されている。他『解放区』(2014)、『Candle For Minority』(2016)、『大津 city 今恋心』(2017)等。また、俳優として「チェルフィッチュ」や「劇団、本谷有希子」に出演するなど、舞台・映像を横断して活動している。

■詳細は、太田信吾公式ホームページ(<http://bluegrotto.asia/news/>)からご確認下さい。随時、更新予定。